

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）13:00~14:40

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 2 1

民主党の政権交代に伴いまして、ハッ場ダムの中止の発言以降から国土交通大臣が交代しまして、現在 4 人ではありますが、その都度、言動が変わってくるなど、地元の方々は翻弄され続け、いろいろと犠牲をしいられている地元の方々の気持ちを思いまして、また、かつハッ場ダムの受益者の埼玉県民の一人といたしまして発言させていただきます。

地元の方々にとって、この 2 年間はなんだったのか。苦渋の選択をしてダムに賛成して、新しい生活再建の様子が描かれる程度に工事が進捗した矢先に、国土交通大臣がハッ場ダム建設を中止するという一方的な発表は、これまで下流の住民のために協力してきたことを踏みにじるような発言で、地元の方々には、さぞややり切れない毎日を過ごしているのではないかと察するところがございます。始めに今回、検証結果についてでございますが、ハッ場ダムの検討報告書（素案）の総合的な評価において、ダム案が最も有利であると示されておりますが、それは当然のことと思っております。それでは、埼玉県が水道水の水源としてハッ場ダムを必要とすることについて、埼玉県の水道の成り立ちなどを背景に述べさせていただきます。埼玉県の水道は、そのほとんどが地下水を水源にして普及してまいりました。しかし、昭和 30 年代後半から、高度経済成長に伴う急激な人口増加を背景に地下水の汲み上げ量が急激に増加いたしまして、県内各地で地盤沈下が発生いたしました。このため、埼玉県では地盤沈下の防止に重点を置くとともに、水需要の増加も視野に入れて、水道の水源を地下水から河川表流水に転換することを施策として進めてまいりました。その結果、埼玉県では企業局に水道用水供給事業が創設されまして、水源を河川表流水に求め、市町村に水道水を送ることで徐々に地下水の汲み上げ量を減少させ、地盤沈下の防止に努めていると聞いております。この他にも、工業用水や地下水の採取規制を行い、現時点でやっと地盤沈下も沈静化傾向を示している段階でございます。しかし、平成 6 年度に起きました大渇水では河川表流水の取水が制限されたことによりまして、地下水の汲み上げが増大いたしました結果、地盤沈下が顕著に現れました。また、県の北東部地域、ここではわずかでございますが、依然として地盤沈下が発生しております。地盤沈下は治水安全対策上の問題もあると思われまます。このことから地下水は大切な水源であり、有効に利用すべきでございますが、その汲み上げ量については、慎重に取り扱う必要があると思っております。県民の水需要でございますが、節水型のトイレ、それから食器洗い機等々の節水型の機器の普及によりまして、増加は見込めないとはいえ、水道事業者には、いつどんな時でも必要な水を供給する体制を整えることが、水道事業の責任ではないかと私は考えております。なお、頻発しております世界的な異常気象をも踏まえまして、貴重な水源を可能な限り確保しておくべきと考えています。水道は県民が衛生的な生活を営むために必要不可欠なライフラインであります。たとえ、渇水となった時でも給水を確保するように努めなければならないものであると思っております。これまで埼玉県は、ダムなどの開発だけでなく、農業用水の有効活用など水道水の確保にあらゆる手段を講じていると聞いておりますが、利根川・荒川水系の水資源開発基本計画の変更時の資料によりますと、渇水時に供給を確保する十分な余裕を持っていないとあります。一般的に暫定水利権が多いということがその現れではないかと考えられます。したがって、そのためには、暫定水利権という不安定な水源に頼っている埼玉の事情をハッ場ダムの水源によって解消すべきだと思います。今回の検討におきま

しては、地下水を含めていろいろな代替案が示されておりますが、どれも現実性には乏しいものばかりでありまして、比較するに値しないものばかりであると感じております。例えば、静岡県の富士川から利根川への約 225km に渡る導水等で、約 1 兆 3 千億円になっておりますが、誰が見ても非現実的であると思います。また、利根大堰のかさ上げについても水の容量を確保することだけを考えた方策でありまして、埼玉、東京、群馬の利水・農業用水等の多くの関係者が存在しておりますことから、簡単に調整が出来るものとは思いません。利根川は日本を代表する大河川でございますので、昔から長い歴史を経て、秩序が保たれてきているのではないのでしょうか。なお、この検証作業がなにかにつけ、無駄遣いの象徴として、八ッ場ダムを中止すると書かれたのが発端で始められたものでございますが、普通の人から見ても、現実的なまともな代替案が存在しないものであれば、今回の検証は何のために行ったのか。中止発言以降の 2 年間で全く無駄な時間であったと感じております。利根川水系は東京都を含めた人口密集地を抱える首都圏の水瓶でございます。既存ダムだけでは貯水容量は不足していると感じております。私自身の感想でございます。1 都 5 県の人口は、日本の人口の約 4 分の 1 を占めておりまして、将来に渡り安心して生活できるよう、必要な水資源を確実に確保しておくべきであります。このようなことから、既に約 8 割が完成している八ッ場ダムは必要不可欠であると考えます。最後でございますが、一言付け加えさせていただきます。私が住んでいる上尾市におきましても、平成 16 年の渇水時に、断水にはならなかったんですが、減圧給水という行為によりまして、水の出が悪いなど不便を経験いたしました。やはり生活に欠くことの出来ない水は、いつも安心して使えることが一番でございます。このようなことがないためにも、八ッ場ダム以外に代替案が無いという総合的評価結果を真摯に受け止め、早期に継続という最終判断をしていただきたい。そして、また一日も早く完成させていただくよう強く望むものでございます。以上でございます。

以上